令和５年度　「特色ある学校づくり対策事業」　実践事例

佐世保市立大久保小学校

〒857-0049
佐世保市東大久保町９－１０
校　長　黒田　優一
児童数　１０９名
学級数　　９学級
（特別支援学級３学級）

目　的

いのちの教育の充実

～「いのちを見つめる集会」と道徳・特別活動・生活科・総合的な学習の時間を中心として ～

心の教育の充実とコミュニケーション能力の向上を図るため、身の回りの様々な「人・もの・こと」とのかかわりをとおして推進し、自立貢献できる子どもを育てる。

学力の向上

～ コミュニケーション能力を生かし、学力の伸びを感じとる子どもの育成をとおして ～

子どもを中心においた大久保コミュニティ体制の構築

～ 家庭や地域との連携・協働をとおして～

実践内容

◎いのちの教育の充実

～「いのちを見つめる集会」と秩序ある生活をめざして～

○いのちを見つめる集会

６月１日に「いのちを見つめる集会」を開催し、いのちの教育の充実を図った。

校長講話では、６月１日はいのちの大切さを学ぶ大事な日であることを冒頭で話した。次に「自分らしく今を一生懸命生きる」「自分のいのちと同じくらい、まわりの人のいのちを大切にする」ことについて具体的に子どもたちに語りかけた。最後に、家庭・地域との連携をとおして、いのちを大切にする子どもを育てていくことを語り結びとした。

児童・保護者・地域それぞれの代表が決意の言葉を表明したことで、いのちの大切さについて全員で共有することができた。

参加者は来賓一般２３名、保護者１０名、報道関係者１３社（２６名）であった。

○「あいさつ」「そうじ」の徹底

生活環境委員会の児童が時と場に応じたあいさつを全校児童に呼びかけた。児童は、来客や登下校時に見守りをしてくださる地域の方にもあいさつができるようになっている。教師が指導するだけではなく、児童の主体的な活動も取り入れている。また、年間を通じて縦割りそうじに取り組んだ。協力することや心をこめて仕事をすることを異学年との関わりの中で学ぶ貴重な場となっている。本校の伝統の一つである。

◎学力の向上
～自ら学び、考え、表現する児童の育成を通して

○見方・考え方を働かせる授業づくり

研究授業では、各教科における見方・考え方を働かせる授業づくりを目指し、教職員全員が検証授業を行った。市の教育センターから講師を招聘し、授業づくりや授業研究会での視点について研修を深めることができた。授業後の研究会では、検証あり方について新しい方法や工夫を取り入れた。これにより授業研究会に広がりと深まりが見られた。また、学力調査の分析を行い対策を検討してきたことや、ICT の効果的な活用を図ってきたことで、学力向上に資する授業改善を推進することができた。

○学力テストを生かす

学力テストを全学年で年間２回実施した。（１年生は、年度末のみ。１・２年生は、国語・算数を実施。３年生以上は、国語・算数・理科を実施。）校内研修で結果を分析した後、課題克服の手立てを共通理解し、全職員で実践に取り組んだ。また、保護者には、結果をもとに、更に伸ばしたいところや改善が必要なところを知らせ、家庭での学習の協力を依頼した。家庭や児童の学習意欲が高まるとともに単元テストの結果等も確実に伸びてきた。

○家庭学習の習慣化

家庭学習の習慣化と質の向上をめざし、家庭学習の取り組み方についてまとめた「家庭学習の手引き（低・中・高学年用）」を作成した。

・家庭学習のよさ（効果）　・発展学習の例
・基本的な進め方　　・家庭でのサポートの仕方

家庭学習後は、家の人に内容を見せ、押印（サイン）をもらうことで、次の家庭学習の励みとなった。高学年児童には、進め方や学習の例を参考に、自主的な学習に取り組む児童が増えてきた。

○整理整頓の指導と心の教育

毎月第１金曜日に「整理整頓の日」を設定し、筆箱、道具箱、ランドセルの中を整理整頓する活動に取り組んだ。この活動を継続することにより、児童には学習に必要のない物を持ってこない習慣がついてきた。持ち物には、名前を書く児童も増え、落し物が少なくなり、物を大切にすることにもつながっている。

また、第２火曜日の朝は、職員による「心の教育」を行った。「あなたのなまえ」「きゅうきゅうの日」「考えるって楽しいな」「座右の銘」など、様々な分野から子どもたちの心に届く話をした。

学校教育目標「秩序と活気ある子どもの育成」の具現化を意識したこの二つの取組の成果は、本校児童の「か（賢い子）・が（がんばる子）・や（優しい子）・き（協力する子）」の姿として学校生活の様々な場面に現れている。

○読書に親しむ子どもに

図書ボランティアと連携し、様々な活動を展開した。

① 図書ボランティアによる図書室の環境整備を定期的に行った。
② 月に２回程度、月曜日に図書ボランティアによる読み聞かせ（全学年）を行った。
③ 秋の読書祭りを実施した。読書ビンゴ、読書の木、ファミリー読書に取り組んだ。
④ 図書室を季節感あふれる掲示物で整えることができた。

これらの取組により、児童は、図書室を身近に感じている。登校後には、図書室に足を運び、本を選ぶ児童の姿が毎日見られる。読み聞かせでは、どの学年の児童も本の世界を楽しんでいる。図書ボランティアの活動のおかげで、読書に親しむ児童が増えた。

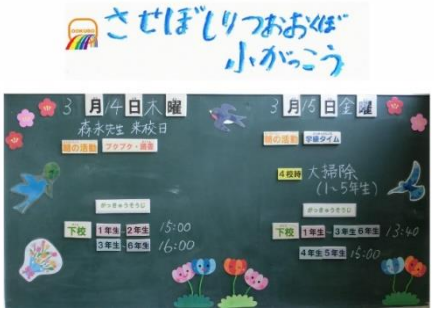
◎子どもを中心にすえた大久保コミュニティ体制の構築
～家庭や地域との連携をとおして～

○学校支援会議

今年度は５回開催することができた。学校の考えや方針をより確かに家庭や地域へ伝え、学校で取り組んでいる教育活動に対して、行事の評価等の結果を参考としながら、様々な角度から忌憚のない意見をいただいた。賞賛されることも多く、職員のやる気と自信につながっている。

○ふれあい運動会

５月１２日（日）に半日で開催した。児童種目は全校ダンスと４種目、ＰＴＡ競技を１種目設定した。１００周年記念事業の一環として作った歌「オオクボピース」での全校ダンスでは、子どもたちの輝く笑顔を地域・保護者の皆様に見せることができた。半日開催であっても地域・保護者と一体となってつくり上げた運動会を実施できた。

○学校の教育活動を発信

学校便りやホームページを中心に、学校の様々な教育活動、教育方針、児童のがんばり等を広く発信した。特に、ホームページのメニュー「ちいさな さんかんび」では、毎日各学年の学びの様子を写真付きで発信してきた。ホームページは、保護者に必要な情報は何かを考えながら、細やかな発信に努めた。緊急連絡等も含めた学校からの情報は、本校ホームページから得られることが保護者・地域に浸透している。行事等の実施に関する学校への問い合わせがほとんどなかったことからも、情報を発信し共有する窓口として、ホームページが機能していることを裏づけている。